

阿見町温水プール基本構想 概要版

1 基本構想策定の背景と目的

阿見町(以下、「本町」という。)の学校プールは、いずれも築40年～55年程度経過しており、令和6年度時点で、プールが利用できるのは9校のうち3校のみとなっている。しかしながら、各校のプールを利用可能とするため、改修・更新した場合には多額の費用が掛かり、その後の維持管理も必要となる。

そうした状況の中で、水泳授業の安全性や継続性の確保、学校プールの維持管理や老朽化対策等の課題解決を図るため、学校水泳授業での共同利用と町民による一般利用の両立を目指した新たな温水プール施設(以下、「本施設」という。)の整備に向け、施設の基本的事項や計画候補地の選定等について検討し、基本構想として取りまとめた。

2 前提条件の整理

(1) 本町の概要

本町は茨城県の南部に位置し、東京都内からJR常磐線や常磐自動車道を利用して約1時間の距離にある。総面積は71.4km²(湖水面6.5km²含む)で、東西に約11km、南北に約9kmの広さとなっている。

本町には、本構想で計画している温水プール等と類似する施設は位置していない。

周辺施設の分布状況は右図のとおりである。

図1 阿見町町域と周辺の主な同種施設の分布状況



(2) 学校プール施設を取り巻く課題および課題解決の方向性

学校プールを取り巻く課題を以下のとおり整理する。

表1 学校プールを取り巻く課題

	主な課題
学校プール施設の現況と見直し	<p>①いずれの学校プール施設も築40年～55年程度経過しており、老朽化が懸念される。今後、利用し続けた場合、ろ過材交換やろ過器交換、防水修繕、建て替え(既存施設解体含む)が必要となる(全体で約22億7千万円を見込んでいる)。</p> <p>②屋外プールであるため、学校授業や地域開放等を実施する年間の一定期間(夏場)のみの利用に留まっており、稼働効率が悪い。</p>
学校授業	<p>③土浦市の民間プール施設を利用して学校授業を実施しているため、民間事業者の方針に左右され、利用にあたっての継続性に懸念がある。</p> <p>④上記に加え、学校授業が優先される保証は無く、他市町村の学校授業の利用とも競合するため、授業の優先度の担保や時間割の自由度に懸念がある。</p> <p>⑤現在は教員による水泳指導を行っているが、今後は教員の負担や安全性を考慮し、民間事業者による水泳指導への切り替えに向けた検討も必要となる。</p>

また、これらの課題に対し、町として学校水泳授業での共同利用と町民による一般利用の両立を目指した新たな温水プールの整備による課題解決の効果について、以下に整理する。

表2 温水プール施設の整備による課題解決の効果

	主な課題	課題解決に対して期待される効果
学校プール施設の現況と見直し	・ いずれも築40年～55年程度経過しており、老朽化が懸念される	・ 学校プール施設の機能を集約するため、町全体における公共施設の適正化に寄与する ・ 年間を通じて利用でき、学校授業だけでなく町民が広く利用可能となることにより、高い稼働効率が期待できる
	・ 今後、使い続けた場合、ろ過材交換やろ過器交換、防水修繕、建替え(既存施設解体含む)には、全体で約22億7千万円と多額の予算が必要となる	
	・ 屋外であるため、授業や地域開放等を実施する年間の一定期間(夏場)のみの利用に留まっており、稼働効率が悪い	
学校授業	・ 民間プールを利用して授業を実施しており、民間施設の経営状況の変更等に左右されるため、利用にあたっての継続性に懸念がある	・ 町主体での施設運営が可能となり、学校水泳授業での利用継続の担保が図られる ・ 町内の小中学校の水泳授業を最優先することができ、時間割の自由度も確保される ・ 水泳指導に関しては、運営者(指定管理者等)による実施が可能となる
	・ 上記に加え、学校授業よりも施設運営が優先され他市町村の学校授業の利用とも競合するため、授業の優先度の担保や時間割の自由度に懸念がある	
	・ 現在は、教員による水泳指導を行っているが、今後安全性等を考慮し、民間事業者による水泳指導への切り替えに向けた検討も必要となる	

(3) 町民のニーズ

第2次阿見町生涯学習推進計画策定にあたり実施した「生涯学習に関するアンケート調査」(令和3年度)では、「町に不足していると思うスポーツ施設」として屋内プールが34.8%と、最も多い回答となった。

(4) 先進事例の動向

本施設と同種施設として、屋内温水プール事例について、県内にて、学校利用を実施している施設を対象に以下に示す4箇所を抽出した。

表3 事例リスト

施設名	所在地	内容
はさきマリプール	神栖市	波崎地区の小学校5校及び中学校3校が利用しており、学校授業を実施していない時間帯は健康増進を目的に一般利用として開放し、温浴施設等を併設するといった、学校利用と一般利用の両立の工夫が見られる。
鹿嶋市いきいきゆめプール	鹿嶋市	学校利用を前提とした公営プール。小中学校5校が学校授業を実施している。授業以外は一般開放を行っている。また本町と人口規模が比較的近い。
つくば市民・学校プール「みどりのプール」	つくば市	学校利用を前提とした公営プール。指定管理者による水泳教室等を行い、またプールの付帯機能として市民が利用できるコミュニティスペースを設けることで、一般利用の目的も併せ持つ施設。
ひたち野うしく小学校プール	牛久市	学校プールを一般開放している事例。

(5) 民間事業者への意向調査

本施設の計画にあたり、施設整備に対する運営側の視点を把握することを目的に、運営事業者に対しアンケート調査を実施した。主な調査結果を表4に示す。

表4 主な民間事業者への意向調査結果

導入機能	調査結果の概要
プール機能	・ 幅広い年代の方の利用促進を目的に、幼児用プールの設置を望む意見が多く確認された
プール付帯機能	・ 利用者の体温調整を目的に、採暖室とジャグジーいずれかの設置を望む意見が多く確認された ・ ジャグジーはレジオネラ菌の発生リスク等を懸念する意見や、温浴施設があれば設置は不要との意見も確認された
温浴機能	・ 利用者から人気の高いことや他施設との機能の差別化を図ることを目的に、サウナや露天風呂の設置を望む意見が多く確認された
トレーニング機能	・ トレーニング室とスタジオを別々に設置することを望む意見が多く確認された
更衣室	・ 更衣室の計画し、重要視する点として、「授業中の一般利用ができる点」、「プールから温浴施設に着衣なしで移動できる点」等の意見が多く確認された

3 阿見町温水プールの基本方針

前章までの検討を踏まえ、本施設の基本方針を以下のとおり設定する。

表5 阿見町温水プールの基本方針

<p>I 子ども達の学習拠点の整備</p>	<p>町内の学校水泳授業の受け入れを行う施設とする。また、学校授業での施設利用をきっかけとして、日常的に水泳等のスポーツ・運動に親しめる環境づくりを目指す。</p> <p>＜具体方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の効率的・効果的な水泳授業の実現 ・気軽にスポーツに親しめる環境づくり
<p>II 多様な世代が集うスポーツ振興・健康増進拠点の整備</p>	<p>幅広い世代が、スポーツに親しめる拠点として、様々な角度から運動・健康づくりに利用できる環境を整備する。</p> <p>＜具体方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人、高齢者まで幅広い世代が気軽に運動に親しめる機能の導入 ・温浴施設に関する町民ニーズへの対応 ・水泳教室の開催による子育て世代のニーズへの対応、教育環境の充実 ・温水プールやトレーニング室を利用した高齢者の健康増進 ・ユニバーサルデザインの導入等、多様な利用者に配慮

4 計画地の比較検討及び選定

本施設の整備候補地(右図参照)を、表6に示す評価項目で比較したところ、すべての候補地において、敷地条件及び道路からのアプローチ性と交通アクセスの観点で優位な評価結果となった。

総合運動公園プール予定地においては、都市公園区域には指定されているが、私有地のため土地買収が必要であることから、土地の確保やそれに向けた手続きに、時間や費用を要する点が懸念される。

また、学校プール施設としての送迎のしやすさは、いずれも片道20分以内であるが、阿見中学校・学校区児童館跡地は、各校からの平均距離・時間ともに最も短く、阿見中学校及び阿見小学校は徒歩で利用できるため、バスの手配が不要となる。

以上を踏まえ、本事業の主目的である学校利用のしやすさ、立地による利便性、整備コスト等の観点から、最も評価が高かった「阿見中学校・学校区児童館跡地」が最も適していると判断した。



図2 計画候補地の位置図

表6 整備候補地の比較と評価

項目評価【◎:非常に優れている、○:優れている、△:他候補地に比べ劣る】

評価の視点		候補地① 阿見中学校・ 学校区児童館跡地	候補地② 総合運動公園プール予定地	候補地③ 追原町有地
1. 敷地条件	敷地面積規模 用地確保の確実性	<ul style="list-style-type: none"> ・既存プールの場所に設置する場合は、敷地面積がやや小さく細長い形状(テニスコートやグラウンドも含め敷地内の配置は検討の余地がある) ・町所有地のため土地買収が不要 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積は一定程度確保できる ・比較的整形な形状 ・私有地(現状、資材置き場として利用)のため土地買収が必要(ただし、都市公園区域に指定されている) 	<ul style="list-style-type: none"> ・最も敷地面積が大きい ・やや不整形な形状であるが、敷地が広く計画上の支障は少ない ・町所有地のため土地買収が不要
		○	○	○

評価の視点		候補地① 阿見中学校・ 学区児童館跡地	候補地② 総合運動公園プール予定地	候補地③ 追原町有地
2. 周辺環境	敷地周辺への民家等の立地状況	<ul style="list-style-type: none"> 周辺には一定度住宅が立地しているが、元々学校プールのある敷地であり、プール利用による影響は少ない 工事期間中には、阿見中学校に隣接するため、工事による騒音や振動による学校環境への影響が懸念される 施設運営段階には、利用者の来場及びバスの往来に伴う周辺交通への影響が懸念される 	<ul style="list-style-type: none"> 工事期間中には、総合運動公園内に位置しているため、工事による騒音や振動による周辺環境への影響は少ない 施設運営段階には、元々総合運動公園の利用があるため、利用者の来場に伴う周辺交通への影響は少ない 総合運動公園利用者を含めた駐車場の確保が公園全体で必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> 工事期間中には、周辺に住宅・施設が少ないため、工事による騒音や振動による周辺環境への影響は少ない 施設運営段階には、周辺に住宅・施設が少なく、主要幹線道路に接道しているため、利用者の来場に伴う周辺交通への影響は少ない
		○	○	○
3. 道路環境	現況道路の状況	敷地東側の旧県道、南側の町道(幅員 8m)と接続可能	敷地東側の町道(幅員 6m)と接続可能	敷地北側の国道、西側の県道と接続可能 ・主要幹線道路に面しており、町内外からのアクセス面で、立地が分かりやすい
		○	○	◎
4. 交通アクセス	町内各拠点エリアからのアクセス時間	<ul style="list-style-type: none"> いずれの拠点エリアからも 20 分以内にアクセス可能 バス路線があり、公共交通機関でのアクセスが可能 拠点①から車で 2 分(0.5 km) 拠点②から車で 11 分(5.4 km) 拠点③から車で 13 分(7.1 km)	<ul style="list-style-type: none"> いずれの拠点エリアからも 20 分以内にアクセス可能 拠点①から車で 8 分(3.9 km) 拠点②から車で 10 分(6.0 km) 拠点③から車で 5 分(2.8 km)	<ul style="list-style-type: none"> いずれの拠点エリアからも 20 分以内にアクセス可能 拠点①から車で 8 分(4.9 km) 拠点②から車で 15 分(9.0 km) 拠点③から車で 10 分(5.8 km)
		◎	○	○
5. 周辺人口	一般利用者の集客が想定されるエリアの人口	<ul style="list-style-type: none"> 半径 5km 以内の人口が 95,757 人であり、十分な周辺人口が確保される 	<ul style="list-style-type: none"> 半径 5km 以内の人口が 40,938 人であり、やや少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 半径 5km 以内の人口が 36,249 人であり、やや少ない
		◎	△	△
6. 学校プール施設としての送迎のしやすさ	各学校と対象地までの平均の距離・時間	<ul style="list-style-type: none"> 平均距離・時間ともに最も短く、各校へのアクセス性が最もよい 阿見中学校及び阿見小学校は徒歩で利用でき、バスの手配が不要となる 平均距離:3.6km 平均時間:7.0 分 (最大:12 分、最小:1 分)	<ul style="list-style-type: none"> 平均距離・時間ともに比較的短く、各校へのアクセス性がよい 平均距離:5.1km 平均時間:9.1 分 (最大:11 分、最小:6 分)	<ul style="list-style-type: none"> 平均距離・時間ともに最も長い 現在中学校が片道約 20 分の施設を利用していることを鑑みると、学校利用の課題にはなりにくい 平均距離:6.4km 平均時間:11.1 分 (最大:18 分、最小:3 分)
		◎	○	○
7. 整備コストの把握(周辺環境整備費)	・用地買収・造成費 ・上下水道、道路の新設整備費 ・既存施設の有無(撤去の有無)	【用地買収】なし 【造成】なし 【上下水道、道路の新設】なし 【既存施設の有無】既存学校プール施設の撤去が必要 ①用地買収費:なし ②造成費:なし ③浄化槽設置費:なし ④既存施設(学校プール 2 箇所)撤去費:約 178,200 千円(必要な場合) ⑤テニスコート移設:約 30,000 千円(必要な場合) 合計: 208,200 千円	【用地買収】あり 【造成】大規模なものはなし 【上下水道、道路の新設】下水道の延伸が難しく浄化槽が必要 【既存施設の有無】既存施設の取り扱いについて、現所有者との協議が必要 ①用地買収費:約 143,000 千円 ②造成費:約 185,900 千円 ③浄化槽設置費:約 16,995 千円 ④既存施設撤去費:なし ※要調整 合計:約 345,895 千円	【用地買収】なし 【造成】大規模な造成が必要 【上下水道、道路の新設】下水道の延伸が必要、美浦村の水管の移設が必要、敷地内に位置する町道の付け替えが必要 【既存施設の有無】なし ①用地買収費:なし ②造成費:約 600,600 千円 ③下水道延伸費:約 58,300 千円 ④既存施設撤去費:なし 合計:約 658,900 千円
		◎	○	△
総合評価		◎	○	○

5 施設計画に関する考え方

(1) 施設の機能

町のニーズ(学校プール老朽化への対応、上位関連計画との整合等)や民間事業者のニーズ(収益性の確保等)を踏まえ、導入機能の方針について、以下のとおり整理する。

表7 導入機能の方針

		町の ニーズ	民間事業者 のニーズ	導入 方針	評価結果
プール 機能	25m プール(7コース)	◎		◎	学校授業での利用に必要となるため
	プールサイド	◎		◎	学校授業での利用に必要となるため
	幼児用プール		◎	△	事業者のニーズはあるが、学校授業時のプール及びプールサイドの面積の確保を優先する必要があるため
	流水プール・スライダープール		△	△	事業者からのニーズがあまり見られなかったため
	医務スペース兼監視室	◎		◎	「25m プール」の利用に当たり必要となるため
	採暖室・ジャグジー	○	○	○	事業者のニーズはあるが、学校授業時のプール及びプールサイドの面積の確保を優先し、どちらかの採用に留めることも可能であるため
	談話室(兼観覧ギャラリー)	◎	△	◎	学校プール授業時の見学スペースとして必要となるため
	更衣室	◎	◎	◎	「25m プール」の利用に当たり必要となるため
トレー ニング 機能	トレーニング室	◎	◎	◎	町民の健康増進機能として有効であり、事業者のニーズも高いため
	スタジオ		◎	△	事業者ニーズより、トレーニング室と分けて設けることが望ましいとされているが、プール機能や温浴機能と比べると他の公共施設で代替できるため、優先度は劣るため
	更衣室	△	○	△	施設計画に応じ、更衣室(プール)との兼用も検討するが、プール・温浴機能の更衣室とは別に設置することが望ましいという意見も考慮する必要があるため
温浴 機能	浴室	◎		◎	町の上位計画の方針に合致しており、周辺施設に同種施設の立地がないため
	サウナ		◎	△	事業者によるニーズが見られたが、優先度は低い
	露天風呂		○	△	事業者によるニーズが見られたが、優先度は低い
	脱衣室	◎	○	◎	学校授業時の一般利用を想定するため
	休憩スペース	△	○	△	事業者によるニーズが見られたが、優先度は低い
管理 運営 ・共用 機能	受付・事務室	◎		◎	施設運営に必要なため
	エントランスホール	◎		◎	学校授業利用時の待機場所での利用や施設運営に必要なため
	トイレ	◎		◎	施設運営に必要なため
	機械室	◎		◎	施設運営に必要なため
	倉庫	◎		◎	施設運営に必要なため

(2) 施設の規模

学校授業が実施可能なプール機能、スポーツを通じた健康づくりの拠点としてのトレーニング機能及び温浴機能を備えるために十分な面積として、本施設の施設規模は「概ね2,000㎡以内」とする。

(3) 機能ゾーニング・動線

導入機能のゾーニング及び利用者動線のイメージを右図のとおり整理した。学校授業実施時に、プールエリアを一般利用者が利用できない場合にも、温浴エリアやトレーニングエリアを利用できるように、更衣室は別途設ける計画とする。その上で、学校授業実施時に児童・生徒と一般利用者の動線が混合しないよう配慮する。

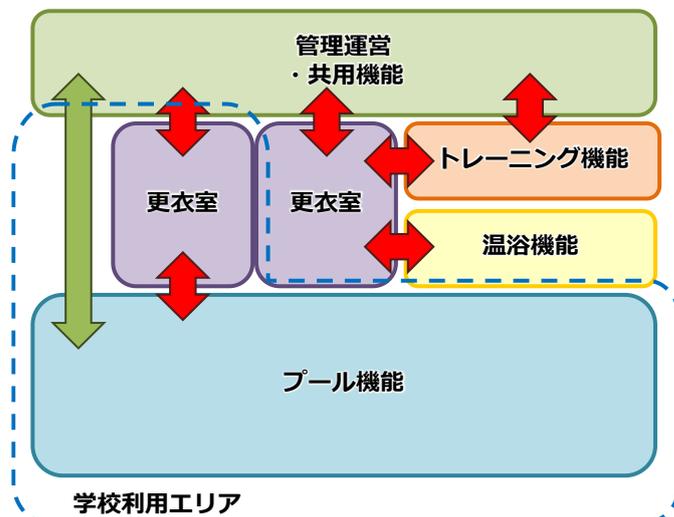
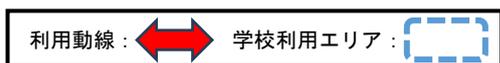


図 3 機能ゾーニング・動線イメージ図

6 事業規模の試算

他市町村の事例を元に、面積や物価高騰の影響を踏まえておよその事業規模を算出した。なお、具体的な概算事業費については基本設計で算出を行う。

表 8 想定概算事業費

項目	事業費（税込）	備考
設計・工事監理費	約 1.5～2 億円	
施設工事費小計	約 16.5～20 億円	
プール工事費	約 15～17 億円	延床面積 2,000 m ² 以内
外構工事費	約 1～2 億円	
備品費	約 0.5～1 億円	
合計	約 18～22 億円	

7 事業手法の検討

「町側の意向反映のしやすさ」や「事業着手までの早さ」の観点で優位であるという点から、本事業では従来方式の採用を基本として検討を進める。なお、従来方式で不利となる運営者のノウハウを生かした施設設計に関しては、事前に運営事業者等への意見聴取を行うなどにより解決することが可能と考えられる。

8 事業スケジュールと今後の課題

(1) 事業スケジュール

事業スケジュールは以下のとおり整理した。ただし、あくまで現時点での想定であり、今後変更する可能性もある。

表 9 想定事業スケジュール（従来方式）



阿見町温水プール基本計画 (一部抜粋)

設計段階に進むにあたって必要な条件等を整理し、基本計画として整理した。

(1) 敷地レイアウト

アクセスの分かりやすさや敷地形状等から総合的に判断し、下図の通りとする。



- ◆ 隣接する公園や阿見中学校の既存プールの解体後の跡地利用を含め、将来は防災公園としての位置づけを予定しております。
なお、整備にあつては国の防災安全交付金(都市公園)の活用を想定しております。
- ◆ 温水プール施設は、災害時にはプールの水の生活用水への活用、温浴施設の開放など町全体の防災機能が飛躍的に高まる施設です。

(2) 諸室面積

導入機能に基づいた諸室について、それぞれ必要十分な面積の計上を行った。なお、詳細は基本設計において検討し、各面積の内訳については誤差が生じる可能性がある。

表 11 諸室面積

諸室		面積の目安
プール室	プール(25mプール、7レーン)	400~420 m ²
	プールサイド等	390~420 m ² (学校授業 150人想定)
	小計	790~840 m ²
更衣室・温浴施設	更衣室・トイレ等	160~200 m ² (男女各75人想定、男女各 80~100 m ²)
	浴室	80~120 m ² (10人想定、男女各 40~60 m ²)
	風呂脱衣所	80~90 m ² (10人想定、男女各 40~45 m ²)
	通路等	最小限とする(30 m ² と仮定)
	バリアフリー更衣室	40 m ² 程度
	小計(男女計)	390~480 m ²
着衣エリア	監視室・事務室	70~100 m ²
	談話室	40~50 m ² (15人想定)
	トレーニング室	60~100 m ²
	ロビー・エントランス・トイレ・風除室等	150~200 m ²
	小計	320~450 m ²
機械室・倉庫		200 m ² 程度
合計		2,000 m ² 以内

